

至 誠

令和3年度決算は、当市の良好な財政状況をより印象付けるものでありました。

財政規模は、一般会計でコロナ関連を除いても500億円弱となり、毎年堅調な伸びを示しています。それだけ当市には、市民も含め稼ぐ力が付いてきており、またそれに見合った発展をしていると言えます。

世界遺産のまちづくり、市立病院を核とする地域医療体制の確保及び充実、地域コミュニティ支援などの安心・安全なまちづくり、市立児童館の建設など、子どもの居場所づくりをはじめとする人口減少対策など、当初予算が堅実に執行されました。

また、新型コロナウイルス感染症の対策については、国からの予算措置を待たずして速やかに政策を実施したことなど、スピード感を持って補正予算を組み、執行したことも評価できると思います。

さらに、特筆できる場所として、毎年赤字が増大していた市立病院に関して黒字に転換できたことです。

次年度に大きな期待を持つことができる決算であったと評価します。

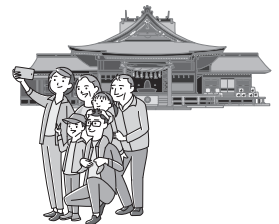


育 成

全般的には、市民の要望に応えながらも事業の選択と集中により限られた財源を効果的に活用し、28億円以上のふるさと納税と寄附金を合わせ35億円以上の黒字決算であったことは大いに評価できます。

また、市の中核である浅間大社を中心とした街づくりに力を入れた点、コロナ対策として富士宮市立病院を核とし市民のワクチン接種に努力した点は素晴らしかったと思います。市民生活に直結した住宅リフォーム・宮クーポンは、市民の要望に沿った事業であり経済効果は大きかったと感じます。

今後、環境整備や市民生活の安定に向けて、本格的な人口減少社会が到来する中で、さらなる市政の発展を目指し積極的で堅実な財政運営を望みます。



無会派 (3人)

- 固定資産税の固定資産の異動状況の売買数が1358件です。今、外国資本に北海道の土地など買われています。円安の影響もあり、富士山や湧水など豊富な富士宮市の土地が心配なので、売買状況を調査する財源を確保できないか。また、市独自の条例を作成し、ハードルを高くすべきと考えます。
- ペットボトルの回収方法が、ラベルをはがし、キャップを外す形に変わり、再資源化されるようになりました。これを市民が実践した結果、日本容器包装リサイクル協会還元金を得ることができました。また、資源鉄等売払金も4000万円を超えるなど、ゴミから収益を得ることができました。循環型社会への方向性が見えつつあります。
- 今決算で一般会計の単年度収支が約39億円で、その大半を基金への積立にあて、予定している公共施設の長寿命化や更新に充てるとしています。しかし、現経済状況への対応や市民の暮らしに直接還元できる政策を推進すべきでないかと提案いたしました。繰越金は市民へ少しでも戻すという意識が必要だと思います。

